

# 「静岡県で行き残した城を日帰りバスで歩く」ご案内資料②

日時=平成19年2月21日

山岸弘明

遠州横須賀城②撰要寺=城主松平(大須賀)忠政が眠る

- 1) 景江山撰要寺=初代城主創建、遠州1の寺格を誇る
  - ① 安土時代、天正9年(1581)横須賀城の初代城主・大須賀康高が創建。天正12年寺領50石を寄進して菩提寺と定め、以後歴代城主の庇護を受けた。
  - ② 浄土宗。10万石格、遠州一の寺格。
  - ③ 当時、遠州灘の横須賀港に面し風光絶景の地に立地。景江山を名乗る。
- 2) 巨大な自然石=築城用に運ばれた残念石
  - ① 「浄土宗撰要寺」の寺名を刻む。伝承は「天正の築城時に運ばれたが大きすぎたので放置された。」
  - ② 「撰要寺墓塔群」「横須賀城不明門」の史跡表示看板
  - ③ 参道石段両側の石垣はコーナー部のみが加工石の「角石」、ほかは川原自然石を積み上げた切り込み野づら折衷、横須賀城の菩提寺らしい石垣を横目に石段を登る。
- 3) 山門=からめ手不明門を移した唯一の横須賀城現存建造物
  - ① 屋根切妻造り本瓦葺き、薬医門形式、3間1戸、大御門、くぐり
  - ② 丸に立て葵紋、本多利長が城主だった4代将軍家綱時代建造。築およそ350年、市文化財指定。
  - ③ 門左右の石灯ろうと手水鉢は寛永15年と万治4年を刻む。
  - ④ 「撰要寺」教育委員会史跡看板
- 4) 本堂=横須賀城との深いかかわりを窺わせる歴代城主の家紋
  - ① 案内板に「観光の寺ではありません」の表示、希望者でお参りから。
  - ② 本堂は屋根寄せ棟造り唐破風向拝、江戸時代か、歴史を感じさせる閑静なたたずまい。
  - ③ 本堂両前に「源氏車」「立て葵」紋、左端は最後の城主西尾家の「楡松」紋か。
- 5) 大須賀(松平)家の墓=忠政が榊原家から入り、忠次が榊原家に戻って断絶
  - ① 本堂左手前に開基大須賀(松平)家の墓。市教育委員会史跡解説板。すき垣石門、榊原家源氏車紋。壮厳、4mほどの宝きょう印塔2基が並ぶ。
  - ② 康高の墓=撰要寺殿前金吾東口浄誉居士、大須賀康高覚霊、時に天正十六戊子年六月二十三日。忠政の墓=花声院殿前口口泰岩叟安居士、時に慶長十二丁未年九月十一日。
  - ③ 康高は徳川譜代の功臣で高天神城攻略基点として横須賀城の構築を命じられ武田勝頼との合戦で武功を立てた。忠政は徳川四天王の一人・榊原康政の庶長子として誕生、外祖父・康高の養子となって家康から松平姓を与えられた。小田原攻略は養父にしたがって出陣、家康の関東入封でいったん上総久留里3万石となるが慶長6年、関が原の戦功で旧領横須賀城6万石に復帰した。
  - ④ その子忠次の元和元年、榊原家の当主康勝が大阪夏の陣中で病死、嗣子なく幕命により、榊原家館林10万石を継ぎ大須賀家は断絶。忠次は墨田区の靈巖寺「旧高田藩主榊原家之墓」に合祀されている。
- 6) 本多家の墓(遠望)=本堂背後の裏山に一族が眠る
  - ① 江戸前期の30年間、横須賀5万石を領有した本多利長一族の墓。正保2年岡崎から転封、岡崎源空寺の歴代の墓を移した。一揆や失政続き天和2年「勤め方よろしからず」として出羽村山1万石に減封となる。
  - ② 車中から遠望。巨大な宝きょう印塔が林立する。本多康重以下、康紀、忠利と初期3代と一族が眠る。



# 大井川川越し遺跡=箱根八里は馬でも越すが越すに越されぬ大井川

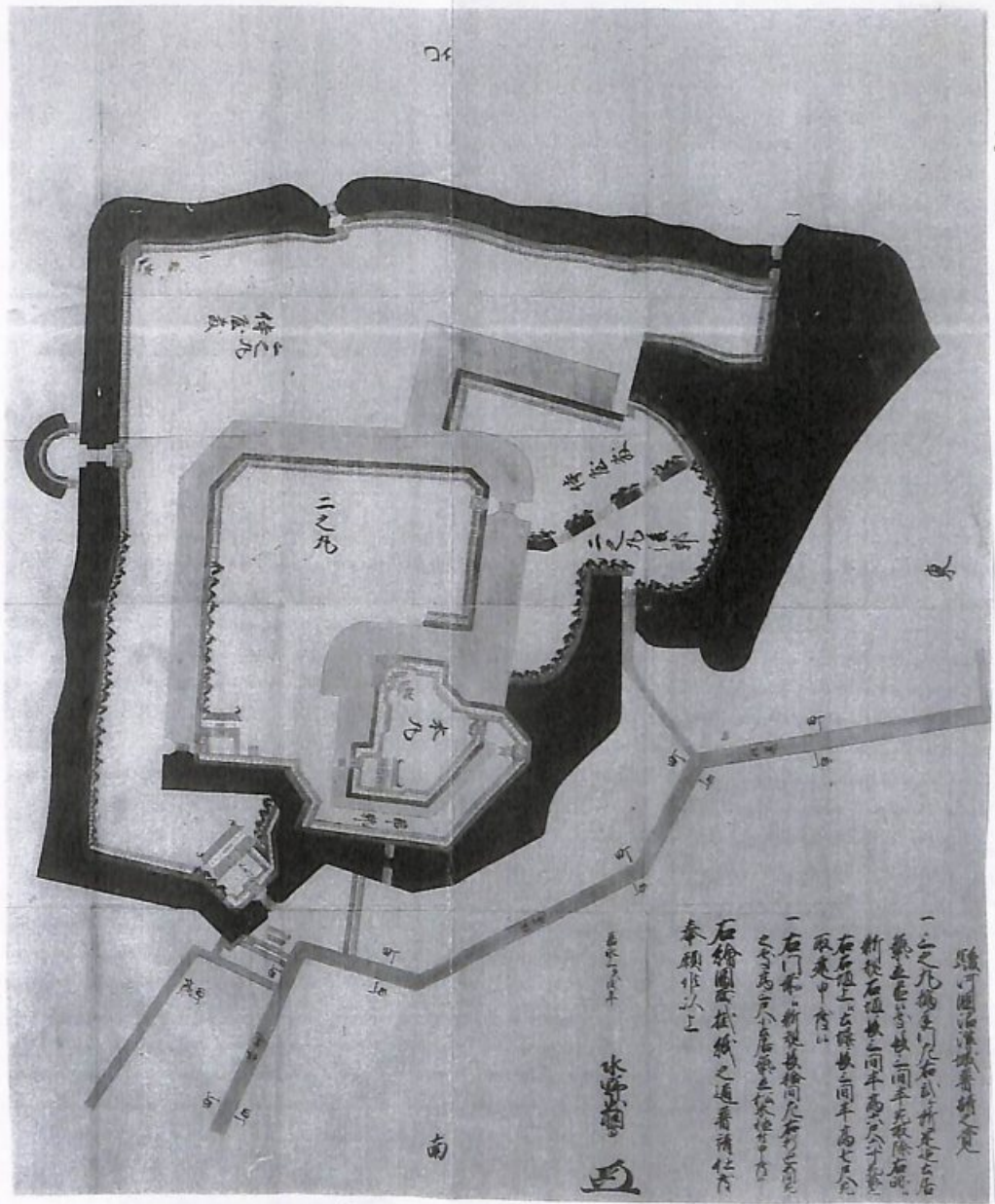
- 1) 東海道五十三次と島田宿=江戸から24番目、島田まげでも有名
  - ① 東海道=江戸と京都を結ぶ五街道最大の幹線道路。江戸時代は紀伊、尾張藩以下150余侯の参勤交代路として賑わった。
  - ② 島田宿=江戸日本橋から24番目、東海道最大の難所・大井川を控えた宿場町。島田まげ=「飯盛り女」と呼ばれた女性たちの髪型で、結婚式の「文金高島田」はその変形。
- 2) 大井川と川越し=東海道最大の難所
  - ① 江戸時代はじめ「宿駅」と「伝馬」制度が定められ五街道が整備されたが、大きな川には橋をかけさせなかったため旅人たちは「渡し船」か「徒歩」で渡った。
  - ② 大井川はとくに要衝の地にあたることから船も認められない。川幅が広く流れも急で危険なため、川越しを助ける専門職人が生まれ、元禄年間にこれを統括管理する「川越し会所」が生まれた。
  - ③ 川越しは明け六つ(午前6時ころ)から暮れ六つ(午後6時ころ)、大善寺の「時の鐘」を合図とした。時間外や越し場以外での渡河は厳禁、「関所破り」として重罪となった。
  - ④ 肩車越し=安く大衆的。棒渡し=無賃者の救済処置。杉丸太にすがりついて渡る。手放したら最後。連合(平から高欄台まで)=4人から24人で担ぐ。大名は贅をこらした専用の高欄台。馬越し=土分のみ。荷物=大名行列などの継ぎ立て荷物も人足が運んだ。
  - ⑤ 川留め=常水を2尺5寸(76cm)とし増水2尺(水深137cm)で川留め。ただちに周辺の宿々に通報された。大名行列や一般旅人たちは周辺の宿場で川明けを待った。旅人たちは難波したが宿場は賑わった。川留めは平均で年間50日にもおよんだ。
  - ⑥ 人足はくも助でなかった=修行をへた熟練集団で規律は厳しかった。過失で事故を起こせば死罪も。
  - ⑦ 川越し賃銭(別図参照)=旅人は予め川札(水嵩で料金異なる)を購入して人足に渡し、人足は終業後はね銭(手数料など)を差し引いた日当を受け取った。
- 3) 川越し場(遠望)=かつて大名行列でごった返した
  - ① 島田市博物館横の道路で降車、堤防から大井川の河川敷(越し場)を遠望。川幅1.3km、時代や季節、水嵩で越し場は微妙に変化したという。江戸時代、大名行列や旅人、川越し人足でにぎわった。
  - ② 明治3年川越し制度を廃止、12年に1kmほど下流に有料の蓬莱橋が架かった。
- 4) 川越し遺跡(国指定史跡)=川会所や番宿を街道沿いに復元
  - ① 土手とせき跡=ここで川水をくい止めた。
  - ② 番宿=川越し人足のたまり場。1~10番組各50人ほどで編成、組別に交代勤務した。大名の通過や川明け、増水時は非番の組を動員した。
  - ③ 札場=人足が川札を換金した所。④川高札場(大井川高札)=川越し注意事項などを告示。
  - ⑤ 川会所=川越しのコントロールセンター。川越し料金を決め、川札を販売した。江戸後期の建造物。維新後校舎などを変遷、昭和45年旧地近くに復元された。
- 5) 自由行動(集合時間は現地で発表=厳守のこと)
 

川会所でいったん解散。番宿と札場、口取り宿(案内所)、島田博物館分館などを自由見学。

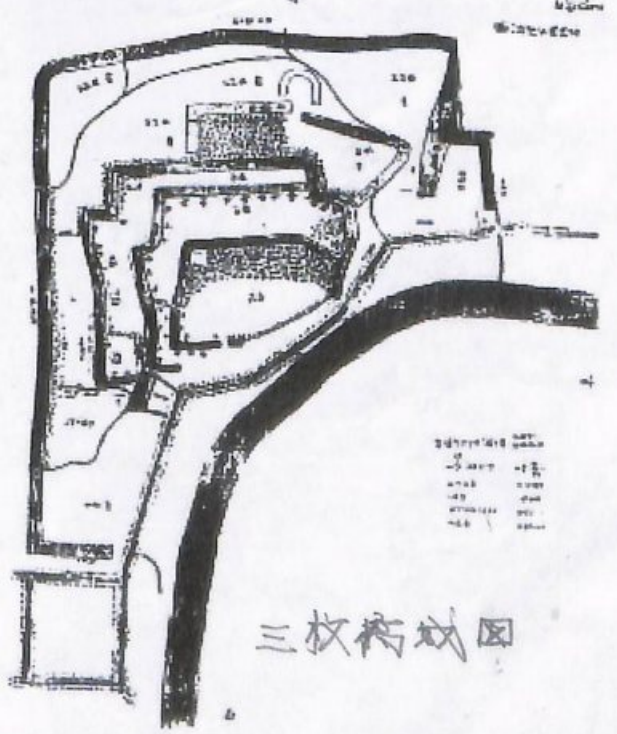
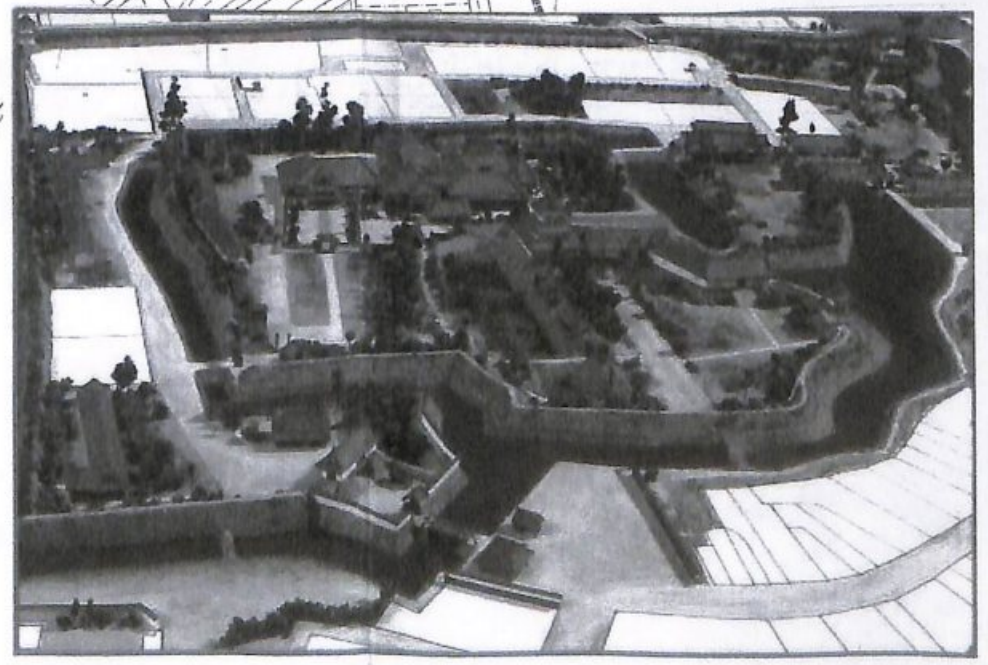


本日の案内コース

→ 沼津城校舎



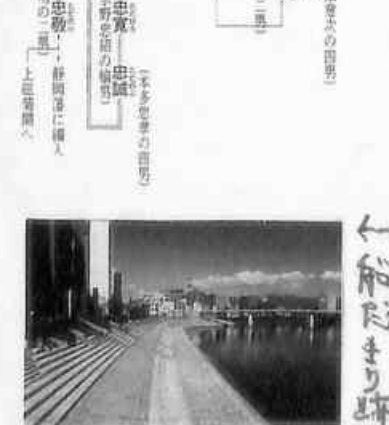
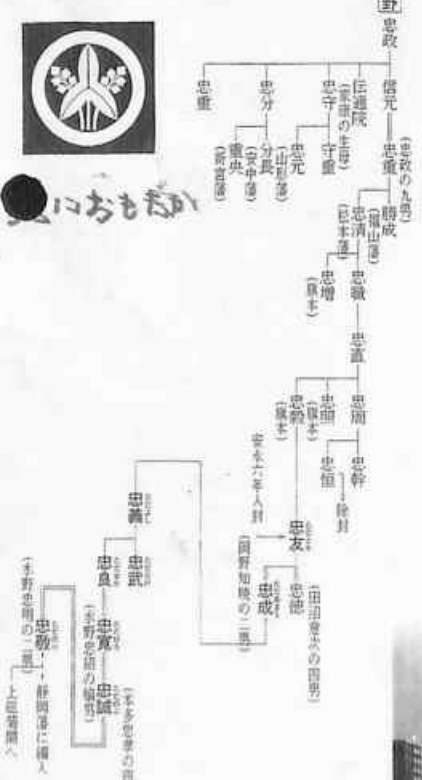
幕末期の沼津城拾遺



三枚橋城図

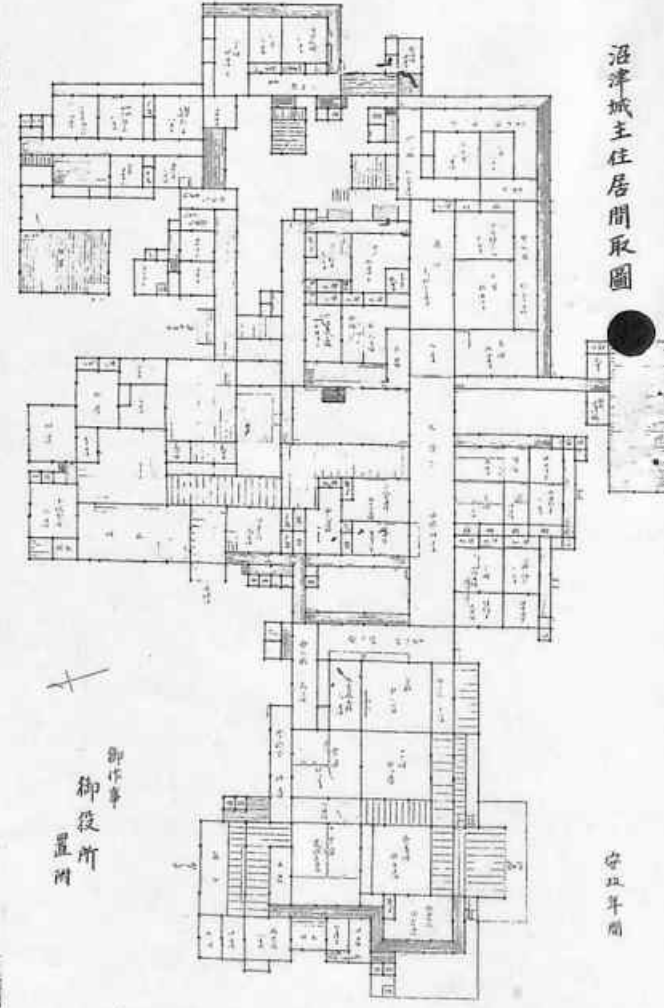
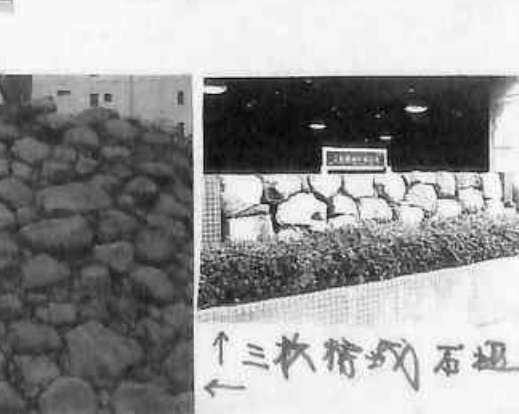
# 沼津城=消えた城に面影を探る

- 1) はじめに三枚橋城ありき=武田勝頼が築いた海賊城
  - ① 信玄没後の武田家は長篠の戦いに大敗、西に織田、徳川、東に小田原北条に攻められ孤立する。駿河沼津港は武田家にとって本国甲斐と駿河湾をつなぐ軍事拠点。天正5年、鹿野川の駿河湾河口近くに築城。相模湾をにらんだ海軍基地(海賊城)で、橋名から三枚橋城と呼ばれた。
  - ② 城は東西、南北それぞれおよそ400mの平城、狩野川を東の外堀に、その川水を利用して4重の水濠と石垣を巡らせた。
  - ③ 築城5年の天正10年2月北条氏に攻められ落城、3月には勝頼が天目山で敗れ武田家は滅亡する。三枚橋城はいったん北条方となるが、直後に徳川家康が奪う。目まぐるしく変遷。
- 2) 猛者・大久保忠佐居城も慶長後期に廃城
  - ① 天正18年小田原攻略の戦功行賞で家康は関東移封、かわって秀吉の臣中村氏の居城となるが、関が原の合戦で家康が勝利すると、「蟹江の7本槍」歴戦の猛者・大久保忠佐を2万石で据える。忠佐は慶長18年死去、直前に嗣子忠兼も父に先だったので無嗣断絶、沼津城は破却された。
  - ② 慶長からの150年は徳川頼宣、徳川忠長領、幕府直轄領と変遷。三枚橋城は破城されたとはいえ、石垣や水濠も放置された。
- 3) 近世沼津城=廃城遺構を側用人水野5万石居城として再建
  - ① 江戸後期の安永6年(1777)、10代将軍家治の側用人でのちに老中首座に栄進することになる水野出羽守忠友が2万石をえて沼津城を再建。
  - ② 水野家は徳川家康の生母、お大の生家であったが松本7万石の時江戸城中で刃傷事件を起こして断絶、おじ忠毅が7千石で家名を相続していた。その子忠友が田沼意次の信任をえて側用人から老中兼勝手掛(大蔵大臣)へ、その権勢は頂点に達した。しかし田沼の失脚で失速、天明8年に罷免された。
  - ③ 次の忠成の時11代将軍家齊の側用人から老中首座にすすみ5万石に加増。以後の歴代藩主も側用人、老中を勤めた。明治元年、徳川宗家の静岡移封にともない上総菊間(市原市)に転封となった。
  - ④ 近世沼津城は旧三枚橋城の中核部分およそ7割程度を利用、狩野川寄りに本丸、その北側に2の丸、3の丸を配した梯郭式縄張り得水濠に石垣を持った本格的平城であった。天守閣相当の本丸三重櫓のほか、2の丸に二重櫓、3の丸に太鼓櫓があった。
  - ⑤ 明治はじめの静岡藩兵学校をへた明治6年廃城、旧藩主御殿や櫓などの建造物は払い下げ、あるいは取り壊された。明治22年東海道線の開通にともない城跡北沿いに沼津駅を設置し、城内を東西に分断して石垣と水濠を破壊した。以後数度の大火、太平洋戦争などで城遺構はほぼ完全になくなっている。



- 3) 三枚橋城と沼津城本丸跡=武田、北条、徳川、豊臣、徳川と変わった要衝の城
  - ① 中央公園前で降車。公園が旧本丸にあたる。三枚橋城当時は本丸御殿があり大久保忠佐らの歴代城主が居住した。近世水野藩時代は城主が2の丸に居住、みるべき建物はなく、沼津兵学校時代は生徒の寄宿舎とされた。
  - ② 公園中央に本丸跡碑と三枚橋城石垣の石、解説の城図で往時を忍ぶ。
  - ③ 天守閣相当3重櫓跡、石垣、水濠、本丸大手門
  - ④ 旧三枚橋城石垣=ホテル建設現場で発掘。かつて数倍の高さがあった。写真参照。
- 4) 旧東海道川廊通りと狩野川=武田海軍軍港から物資輸送拠点港へ、いま遊覧船がめぐる
  - ① 川廊通り=東海道旧道。石畳を復元、街道のイメージが残る。江戸時代はじめ沼津城廃城にともない城を迂回した街道を最短距離の川沿いに移した。鹿野川に船運が開かれ、船着き場に隣接したので物資や人々の交流が盛んで、沼津の中心的な役割を果たした。
  - ② 沼津城が再建後も東海道は移せず、本丸近くあたかも城の中を通過するかのようであった。
  - ③ 狩野川は三枚橋城時代の外堀。沼津城時代も戦時の外堀を想定している。
  - ④ 武田勝頼三枚橋城時代の海軍軍港。江戸時代は狩野川と相模湾を結ぶ拠点港として栄えた。
- 5) 兵学校碑=2の丸殿舎、兵学校跡は大通りと一大商店街に変貌
  - ① 徳川宗家家達静岡藩70万石=慶応4年5月明治維新により徳川宗家は70万石の1大名家として静岡に移さる。沼津も徳川領となり、明治2年陸軍士官を養成するための沼津兵学校と付属小学校を設立。
  - ② 西周を校長に、当時の日本を代表する学者や軍人を配し、わが国での欧米型新教育とされる。しかし明治4年廃藩置県で新政府管理下に、翌5年東京の陸軍兵学校と合併、消滅している。
  - ③ その間わずか3年に過ぎなかったが多くのエリートが集まり、後に出身者の多くが各分野で活躍し、日本の近代化に貢献した。
  - ④ 歴代城主が居住した沼津城2の丸殿舎と兵学校跡=さんさん通りが縦断、商店街に。
  - ⑤ 兵学校碑は兵学校から道路(元は水濠)1本を隔てた3の丸、城岡神社の一隅に佇む。「沼津兵学校記念碑」碑文は楷書だが漢文で難解、明治27年9月中根淑撰、大川通久書を刻む。神社は元城の守り神で稲荷神社であったという。
  - ⑥ 再び本丸跡、中央公園横からバス乗車。一路渋谷をめざす。

以上



2の丸行成(兵学校)